

長年親しまれて来た川内も、明るく開放的に生まれ変わる 川内キャンパスリニューアル

川内北キャンパスは、学生にとって大学との出会いとなる初年次教育の場であり、「大学の顔」と言える。また新キャンパス構想においては「青葉山・川内グリーンキャンパス」の一部として位置づけられ、中でも地理的には市街地へ対するフロントとしての場所である。周囲は仙台城跡や植物園などの豊かな自然・文化的環境に囲まれている一方、仙台市地下鉄東西線の工事が平成27年の開業を目指し進められている。これらとの調和・連携を図りながら、キャンパスアメニティーの向上を目指したキャンパス整備が行われている。



歴史の息吹を感じさせながら、豊かな緑も創出

川内キャンパスプラザ①

これまで雑然としていた川内キャンパスの中央部を「大学の顔」にふさわしい広場として全面的な整備を行った。キャンパスの来訪者は、広々とした芝生の空間に迎え入れられる。

以前、キャンパス入口を塞いでいた駐輪場は移設され、ゆったりと安全に歩けるようになった。また、市道によって分断されていた南北のキャンパスの視覚的な一体感も生まれた。

既存の樹木を保存するとともに、新たなシンボルとなるケヤキの並木が加えられた。またキャンパスの各所に日本の四季を感じさせる花木が植えられ、海外から



の来訪者の目を楽しませる演出となっている。

広場の色彩や素材については、仙台城跡の歴史的雰囲気と調和し、また東北大学の伝統も感じられるよう、落ち着いた色や格式を表現するものとした。

学生の心地よい居場所となるよう、木陰には様々な形状のベンチが配置されている。また、講義棟談話室の前に設けられた広々としたウッドデッキや、厚生会館前に設けられたランチスペースは、多くの学生で賑わっている。

また、大学祭等におけるコンサートや屋台設置など、広場で行なわれる様々な年間行事にも対応できるよう、機能的な広さの舗装スペースとゆったりとした芝生広場を用意し、豊かなキャンパスライフの舞台装置を構成している。

学生の活動ゾーンを活性化させ、大学の顔に

川内サブアリーナ棟②

地下鉄東西線工事に伴い、長年「ヒンショク」として親しまれてきた食堂と、体育館の一部(サブアリーナ・武道場)、更衣室が複合施設として生まれ変わった。キャンパス北側のエッジに沿った建物の、1~2階に食堂、その上に体育施設が入っている。

新食堂(Bee ARENA Café)は、吹き抜けのある開放的なガラス張りの空間で、従来のテーブル席に加え、カウンターやソファなど多様な席が用意されている。また2階には屋外テラスが設けられ、キャンパスの緑を眺めることができる。

テラス席からは、隣接する多目的アリーナでの運動の様子を垣間見る



ことができ、イベント時にはアリーナ、テラス、食堂の一体的利用も可能である。

北側の市道から見ると、食堂や多目的アリーナの大きなガラス面を通して、施設内の活気を感じることができる。



爽やかで、温もりの感じられるスペースに変貌

厚生会館増改築③

昭和44年に建てられた既存厚生会館では老朽化や席数不足等の問題が著しく、増築を伴う全面的なリニューアルを行なうことで厚生環境の改善を図ることになった。

既存棟南側に、緩やかな円弧を描く木造平屋建ての新食堂を増築し、色とりどりのキッチンボックスから種類の異なるメニューを提供する食堂とカフェが2010年1月に誕生する。

既存改修については、売店は先行して既にオープンし、食堂は2010年3月の完成を目指して現在工事が進められている。



Topics!

着々と整備が進む青葉山新キャンパス

現在、東北大学は、新たな学問領域や新技術・新産業を創出し得る教育研究環境の創造とともに、「杜の都・仙台」のシンボルとして市民に親しまれて来た青葉山の豊かな自然環境を活かした「環境調和型キャンパス」の実現に向け、着々と整備を進めている。

